伊方町議会第70回定例会に係る一般質問通告内容

質問者	質問の大綱	質問の相手
田村 義孝 議員	1 独居老人の見守りについて	町 長
質問の要旨		
<p>伊方町は県下の自治体でもご存じのとおり2番目の高齢化率の町となっています。最近、集落を回っていますと、介護施設へ行かれたとか、病院へ入院したとか、お亡くなりになられたというお話をよく耳にするようになりました。介護施設へ行かれるのは住み慣れた家や地域を離れて行かれるので寂しいことではありますが、見守りという観点では独居の方などは家族も本人も安心感が増すことと思います。私が今回、質問しますのは特に独居の方の見守りについてです。戸締りに行かれたまま、玄関先で倒れていて施錠されているから独居のため発見が遅れて、治療が遅れたため後遺障害が残ったとか、発見した時には亡くなられていたというケースです。集落の中でそのようなことが起こると、離れて暮らす家族はもちろんですが、住民もつらい気持ちになります。コロナウイルスの感染拡大により、ここ何年も地域の行事や集まりも減り、人と接する機会も少なくなっていると危惧しております。現在も配食サービスや民生委員さんによる見守りは行われていると思いますし、そういう方々のサポートは本当にありがたいと思いますが時代にあった、もう少し手厚い見守りはできないもののでしょうか。</p> <p>そこで3点についてお尋ねします。</p> <p>① 現在、伊方町では高齢者、独居の方の見守りをどのようにされているのかお尋ねいたします。またコロナ禍で人との接点が減った中、従来よりも特に気をつけて行っていることがあるのかあわせてお尋ねします。</p> <p>② 以前は社会福祉協議会の方で、何かあった場合は身に着けているブザーを押せば、事前に登録されている集落内の住民の方が駆け付けるという仕組みがありました。今は既存のブザーをお持ちの方のみのご利用で新規の扱いは廃止となったように聞きましたが、なぜ廃止になったのでしょうか、またこの制度を復活させることはできないかお尋ねします。</p> <p>③ 最近ではポットを使うと使用状況がメールで届くとか、電球のONとOFFをメールで知らせてくれる手軽なものから、費用はかかりますがいざというときに駆けつけてくれるセキュリティ会社のサービスもあります。見守りサービスは、高齢者が安心して暮らせるように利用するものであると同時に、見守る側が安心を得るためのものでもあります。そして、それぞれが希望通りの生活を続けられるという、満足感を得られるものでもあります。自助、共助、公助とはよく言いますが、自助は言うまでもなく共助も全体の高齢化により助ける方の負担も増しているように思います。ですので民間のこのようなITを使った便利な道具を導入しやすくするために補助制度を創設するお考えはないかお尋ねします。</p>		